

CONNECT

令和3年3月10日発行 【第40号】

ふくしま中央認定子ども園・杉妻幼稚園・福島ぼなみ子ども園・福島郷野目子ども園・杉妻保育所
とやの保育園・ニチイキッズ福島みなみ保育園・けやきの子・南福島保育所・福島第一小学校
清明小学校・杉妻小学校・福島第一中学校

「子どもたちの環境への危惧」

福島市立福島第一中校長 佐藤 浩哉



現在、子どもたちの日常生活で最も大きな課題は、スクリーン（画面）を見る時間が大変増えていることです。スマホ、タブレット、ゲーム機、パソコン、テレビ等、種々の機器に囲まれた環境にある子供たちは、使い始めるとそこから離れることが難しくなるようです。ゲーム脳による学習効率の悪化、SNSに画像や動画を投稿してのトラブルなど、弊害が年々増加しています。幼保小中が連携し、各家庭に、その利活用だけでなく、危険性をしっかりと認識していただくことが急務となっています。子ども一人ひとりの生活を守り、学習や体験を充実させるために、今まで以上の危機意識と強い連携・協力が必要です。



児童生徒の生活状況に関する調査研究から

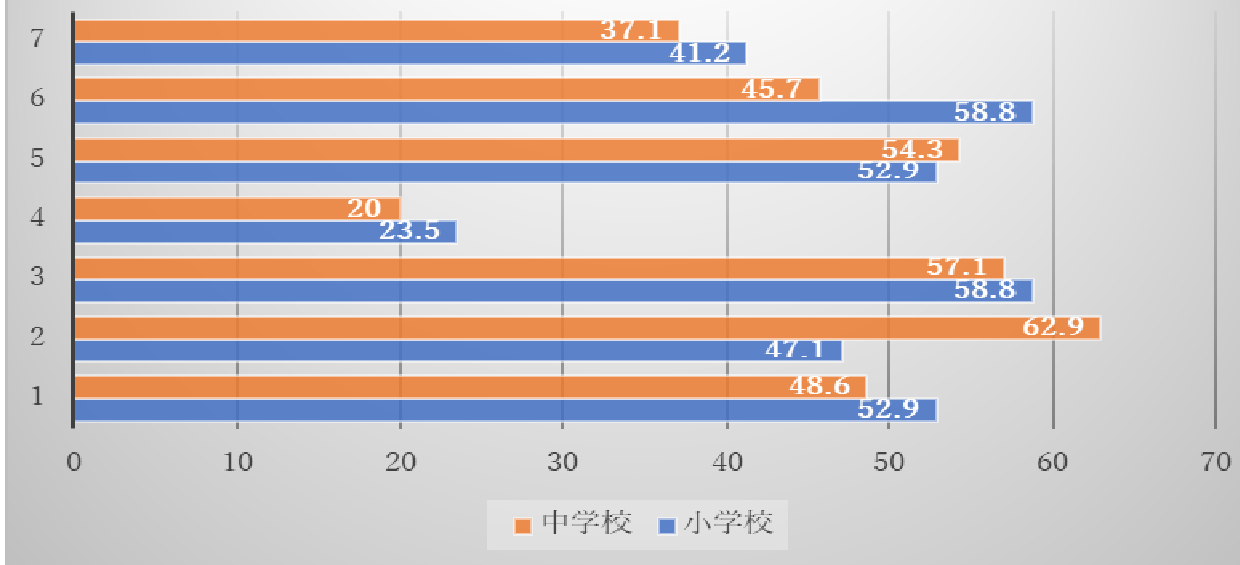
令和2年度福島市教育委員会では、市内の小学校4校、中学校3校に協力していただき、子どものインターネットをめぐる現状と課題として、調査研究をしました。その一部を下記に掲載します。

「スマホ、タブレット、ゲーム機等を使うようになって健康等で当てはまることはありますか」との問いに対して回答を次のように設定しました。

- 1 睡眠時間が短くなった 眠くて起きられなくなる 学校で眠くなる
- 2 やりすぎで、学力が下がるのではないかと心配になる
- 3 スマホやゲームの目への悪影響が心配になる(ブルーライト、近視など)
- 4 過激なゲームをやりすぎて自分の心が心配になる
- 5 脳への影響が心配になる(ネット依存、ゲーム障がい)
- 6 使い方について家族とけんか等になる(使いすぎ等で)
- 7 スマホやゲームの影響で運動不足になっている

次ページのグラフを見ると、小・中学校に差があるものの、上記の1, 2, 3, 5, 6の割合が高くなっています。特に、目への悪影響については、小・中学校ともに高い割合を示しています。

健康面での心配



幼・保・小連携推進「メディアコントロール週間」

福島第一中学校区では、今年度より「メディアコントロール週間」と題して、児童生徒が自制してメディア(テレビ、PC、スマホ、ゲーム機等)から距離をとって、読書や家庭との会話・手伝い、学習に取り組む機会を設けました。年三回の取り組みでしたが、各小・中学校で反響がありましたので以下に掲載します。

家族で話し合い、家庭学習が終わらないうちはゲームをしないことを確認しました。メディアが身近にありすぎて、大人も切り離すことが難しいので、止めるのではなく、コントロールすることが大切だと話しています。(小学校)

テレビはほとんど見ませんが、定期テスト前ということもあり、ユーチューブを見る時間を減らして努力していたようです。視力低下にもつながるので今後も気を付けてもらいたいと感じます。(中学校)

メディアから離れて生活することは、家族全員で取り組まなければならないことを改めて感じました。今後もメディアから離れて、親子での読書などをしていきたいです。(小学校)

タイマーをセットしたり、家族に声をかけたりと時間を守る工夫をしていきたいと思います。(小学校)

家庭でも、メディアと離れ、静かに他のことに集中できる時間はとても貴重だと実感したので、習慣化できるように努力したいと思います。(中学校)

空いた時間を読書や家族との会話など、自分なりの方法で楽しんでいました。工夫しだいでメディアを利用しなくても楽しめることが分かった。(小学校)